

令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(豊里中学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
豊里中	50.7	58.5	59.4	44.6	50.2	56.0	57.5	46.6
埼玉県	59.9	60.3	66.4	53.5	48.8	57.5	61.9	54.6

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
豊里中	6-A	8-C	8-B	5-A	8-C	7-A	8-A	9-C
埼玉県	7-A	8-C	9-C	6-B	7-A	8-C	9-C	10-C

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
豊里中		2	1		5	-1		1
埼玉県	1	0	2	1	2	0		3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	中1		中2		中3	
		豊里中	埼玉県	豊里中	埼玉県	豊里中	埼玉県
深谷の子の誓い	・将来の夢や目標を持っている	89	80	66	69	92	67
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	82	73	80	68	90	68
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができる	82	85	82	83	94	85
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができる	98	89	96	90	97	92
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができている	89	90	86	88	100	91
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	51	46	42	43	62	44
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	84	69	84	66	87	72
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	13	16	6	11	26	11
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	82	77	82	69	77	65
	・県や地域の歴史や自然に関心をもっている	78	57	56	46	92	42
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	67	66	60	62	87	58
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	96	83	88	84	82	78
	・国語や数学、英語の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた(3項目の平均)	18	21	2	18	6	19
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	33	27	8	13	15	12
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	89	92	96	93	97	93
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	93	95	96	95	95	95
	・学級での生活は楽しい	93	92	90	94	97	92

【質問紙分析】

- ・「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」「休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している（塾等を含む）」の質問項目に対し、肯定的に回答した生徒の割合がとても高かった。このことから、深谷の子6つの誓いの『挑戦』『毎日勉強』に関わる意識が高まっていることが見て取れる。
- ・勉強をする理由として、将来の役に立つためと考えている生徒が、どの学年でも多くなっていた。一方で、勉強が楽しい、好きだと答えた生徒の割合は学年によって大きな差があるため、学習への意欲を一層高めるための指導の工夫が必要である。
- ・「課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった」の質問項目に対し、肯定的に回答した生徒の割合が高かった。一方で、「国語や数学、英語の授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた」の質問項目への肯定的な回答が少なかったことから、生徒同士で対話を行う学習場面において、タブレットをより積極的に活用していく。
- ・その他の質問項目で、肯定的な回答をした生徒の割合が高かったことから、多くの生徒が学校生活を前向きに捉え、良好な人間関係を築いていることが見て取れる。

伸びが見られた学級・教科での取組

【学級】

- ・毎朝、学習や読書に集中して取り組む時間を設けることで、基本的な生活習慣や望ましい学習習慣を身に付けさせている。
- ・教職員が積極的に生徒とのコミュニケーションを取ることで、生徒の不安や悩みを相談しやすい雰囲気を作り出している。
- ・課題を抱えた生徒に対し、複数の教職員が積極的に関わることにより、学校全体がチームとして子どもたちを育てていく体制を整えている。

【国語】

- ・2年生、3年生では伸びが見られ、県の平均にかなり近づいた。3年生では、少人数指導を継続した成果が現れたと考える。2年生では、個に応じた支援ができたことにより成果が現れたと考える。
- ・毎時間の、漢字の取り組みを行ったことや生徒間の話し合いの活動を多く取り入れることで、基礎知識の向上につながったと考えられる。

【数学】

- ・2年生では大きな伸びが見られ、県平均を上回った。これは、授業の冒頭に小テストで前時までの既習事項を確認したり、展開でICT機器を効果的に活用して視覚的な理解を促したり、ペア活動で説明をし合う活動を積極的に取り入れた結果だと考えられる。
- ・ティーチング・タイムを設け、早くできた生徒が他の生徒をフォローする活動（教え合い）により、低位層の生徒は学習内容を理解し、中・上位層の生徒は理解をより深めることにつながったと考えられる。

【英語】

- ・ 2年生、3年生ともに各単元の文法問題を毎授業で実施しており、文法の理解が定着していると考えられる。長文読解には課題が見られるため、継続した帯活動などを通じて、長文を読むという機会を少しでも多く与え続けていきたい。
- ・ 毎時間の授業の中で会話の時間を設けており、それにより自分の考えを英語で表現することや、英語で話を聞くことに慣れている。生徒の会話による実践を通して、学習した内容をアウトプットする過程が、基礎力の向上につながったと考えられる。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・ 国語では、文章の比較を通して内容を吟味し、表現の違いや描かれ方の理由を考える活動の回数を重ねることで、題材をより深めていけると考える。また、文法なども継続して定期テストに出題し、授業でも復習を行うなどして基礎知識の定着を図る。
- ・ 数学では、図形領域における正答率が低いため、授業では、「なぜ？」の疑問を大切にしながら、知識及び技能を身につけさせていく。その際、ICTを積極的に取り入れながら、イメージを持たせるように指導していく。また、実生活の場面と数学の学習を結びつけるような課題を取り入れたり、自分の考えを相手に説明する時間を増やしたりすることで、思考力、判断力、表現力等を伸ばしていく。
- ・ 英語では、既習事項の復習や活用を目的に毎時間会話の時間を設け、その日のトピックに応じた会話をさせている。そのため、英語で表現する、話すことには慣れている。生徒1人ひとりの英語力をより向上させていくために、英語を読むことにフォーカスを当てる。学力向上につなげるため、話せる英語を読めるようになることを目指し、毎授業で教科書本文などの短い文章から自力で読むトレーニングを重ねて、長文読解のスキルを養っていく。